

問題6-8

【問1】③：500

〈資料1〉

	X1年度
流動資産	
現金及び預金	2,000
受取手形	500 ← 差額
売掛金	1,000
電子記録債権	2,000
有価証券	800 ← 〈資料4〉
商品	630
その他	70
流動資産合計	7,000 ← 後述

* X1年度の流動資産7,000 = 資産合計17,500 × 流動資産の貸借対照表構成比率40% 〈資料6〉

【問2】②：38,000

X1年度の売上高20,000 × (100% + X2年度の売上高の伸び率90% 〈資料6〉) = 38,000

【問3】⑤：4,200

広告宣伝費570 + 給料・賞与2,550 + 福利厚生費80 + 通信費50 + 旅費交通費110 + 租税公課400 + 保険料55 + 退職給付費用135 + 水道光熱費60 + 減価償却費160 + 研究開発費30 = 4,200

* 〈資料5〉のX1年度の販売費及び一般管理費・営業外損益・特別損益の各項目より。

* その他の項目

営業外収益500 = 有価証券売却益445 + 受取配当金25 + 有価証券利息30

営業外費用300 = 支払利息50 + 有価証券評価損250

特別利益100 = 投資有価証券売却益50 + 固定資産売却益50

特別損失100 = 減損損失100

【問4】③：1,400

〈資料2〉

	X1年度
売上高	20,000
売上原価	14,000 ← 差額
売上総利益	6,000 ← 売上高 × 売上高売上総利益率30% 〈資料6〉
販売費及び一般管理費	4,200 ← 問3参照
営業利益	1,800 ← 差額
営業外収益	500 ← 問3参照
営業外費用	300 ← 問3参照
経常利益	2,000 ← 差額

特別利益	100 ←問3参照
特別損失	100 ←問3参照
税引前当期純利益	2,000 ←差額
法人税, 住民税, 及び事業税	680
法人税等調整額	△80
当期純利益	1,400 ←差額

【問5】③：△500

〈資料3〉

	X1年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,000 ←後述
財務活動によるキャッシュ・フロー	△500 ←差額
現金及び現金同等物の増減額	1,000 ←差額
現金及び現金同等物の期首残高	1,000
現金及び現金同等物の期末残高	2,000 ←〈資料1〉

* X1年度の投資活動によるキャッシュ・フロー△2,000

=フリー・キャッシュ・フロー1,500〈資料6〉－営業活動によるキャッシュ・フロー3,500

* フリー・キャッシュ・フロー

=営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

【問6】①：（ア）正（イ）正

ア）問題文の通り。

イ）問題文の通り。

* その他のパターンについては、別途添付の「例題：キャッシュフローの循環パターン」を参照。

【問7】④：（ア）誤（イ）誤

ア）伸び率はマイナスの値になることもある。

* 例：X1年度の売上高が200、X2年度の売上高が140だった場合、伸び率は△30%（＝ $(140 - 200) / 200 \times 100$ ）となる。

イ）X2年度の短期借入金の対前年度比率150%＝X2年度の短期借入金3,000 / X1年度の短期借入金2,000×100

* X2年度の短期借入金の伸び率50%＝ $(X2年度の短期借入金3,000 - X1年度の短期借入金2,000) / X1年度の短期借入金2,000 \times 100$

【問8】②：（ア）正（イ）誤

ア）売上高、売上総利益、営業利益、経常利益、当期純利益いずれもX1年度からX2年度にかけて増加しているため、増収増益である。

〈資料2〉

	X1年度	X2年度	
売上高	20,000	38,000	←問2参照
売上原価	14,000	30,400	←×売上原価率80%〈資料6〉
売上総利益	6,000	7,600	←差額
販売費及び一般管理費	4,200	5,360	
営業利益	1,800	2,240	←差額
営業外収益	500	560	
営業外費用	300	500	
経常利益	2,000	2,300	←差額
特別利益	100	100	
特別損失	100	200	
税引前当期純利益	2,000	2,200	←差額
法人税, 住民税, 及び事業税	680	730	
法人税等調整額	△80	△70	
当期純利益	1,400	1,540	←差額

* X1年度の数値は問4参照。

* 増収増益とは、売上高と利益がともに増加していることを指す。

イ）X4年度の経常利益2,783=X2年度の経常利益2,300×110%×110%

【問9】③：（ア）誤（イ）正

ア）正味運転資本（＝流動資産－流動負債）がプラスの場合（流動資産＞流動負債）、流動比率（＝流動資産 / 流動負債×100）は100%を上回る。

イ）正味運転資本はX1年度（300）からX2年度(1,200)にかけて増加している。

* X1年度の正味運転資本300＝流動資産7,000（問1参照）－流動負債6,700（後述）

〈資料1〉

	X1年度	
流動負債		
支払手形	1,800	
買掛金	1,400	
電子記録債務	1,000	←〈資料4〉
短期借入金	2,000	
その他	500	
流動負債合計	6,700	←合計

* X2年度の正味運転資本1,200＝流動資産8,200－流動負債7,000

【問10】③：（ア）誤（イ）正

ア）当座資産に棚卸資産は含まれない。

イ）当座比率はX1年度（95.1%）よりもX2年度（110.0%）の方が高く、短期の支払能力はX2年度の方が高い。

* X1年度の当座比率95.1% = 当座資産6,370 / 流動負債6,700（問9参照）× 100

* X1年度の当座資産6,370 = 流動資産7,000（問1参照）－ 商品630

* X2年度の当座比率110.0% = 当座資産7,700 / 流動負債7,000 × 100

* X2年度の当座資産7,700 = 流動資産8,200－ 商品500

【問11】②：（ア）正（イ）誤

ア）問題文の通り。

* 手元流動性 = 現金及び預金 + 有価証券

イ）手元流動性はX1年度（2,800）よりもX2年度（3,700）の方が大きい。

* X1年度の手元流動性2,800 = 現金及び預金2,000 + 有価証券800（問1参照）

* X2年度の手元流動性3,700 = 現金及び預金2,500 + 有価証券1,200

【問12】②：（ア）正（イ）誤

ア）問題文の通り。

$$\begin{array}{ccccccc} \text{総資本経常利益率} & & & & & & \\ \text{(ROA)} & = & \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} & \times & \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}} & & \\ & & \underbrace{\hspace{2cm}} & & \underbrace{\hspace{2cm}} & & \\ & & \text{売上高} & & \text{総資本} & & \\ & & \text{経常利益率} & & \text{回転率} & & \end{array}$$

イ）総資本経常利益率はX1年度（11.4%）よりもX2年度（12.1%）の方が高い。

* 総資本 = 資産合計

* X1年度の総資本経常利益率11.4% = 経常利益2,000（問4参照） / 資産合計17,500 × 100

* X2年度の総資本経常利益率12.1% = 経常利益2,300（問8参照） / 資産合計19,000 × 100

* X2年度の資産合計19,000 = 売上高38,000（問2参照） ÷ 総資本回転率2回〈資料6〉

【問13】③：（ア）誤（イ）正

イ）売上高経常利益率はX1年度（10.0%）よりもX2年度（6.1%）の方が低く、X1年度からX2年度にかけて悪化した。

* X1年度の売上高経常利益率10.0% = 経常利益2,000（問4参照） / 売上高20,000 × 100

* X2年度の売上高経常利益率6.1% = 経常利益2,300（問8参照） / 売上高38,000（問2参照） × 100

イ）総資本回転率はX1年度（1.14回）よりもX2年度（2回）の方が高く、X2年度の方が投資効率が低い。

* X1年度の総資本回転率1.14回 = 売上高20,000 / 総資本17,500

* X2年度の総資本回転率2回 = 〈資料6〉

【問14】④：（ア）誤（イ）誤

ア) 財務レバレッジ（＝総資本 / 自己資本×100）は自己資本比率（＝自己資本 / 負債純資産合計×100）の分母と分子を入れ替えた逆数で示される。

* 総資本＝負債純資産合計

イ) 財務レバレッジはX1年度（198.9%）の方がX2年度（192.9%）よりも高い。

* X1年度の財務レバレッジ198.9%＝総資本17,500 / 自己資本8,800×100

* X2年度の財務レバレッジ192.9%＝総資本19,000（問12参照） / 自己資本9,850×100

* X2年度の自己資本9,850＝総資本19,000－負債合計9,150

【問15】③：（ア）誤（イ）正

ア) 1株当たり当期純利益（＝当期純利益 / 発行済株式数）は、発行済株式数が多ければ小さくなる。

イ) 1株当たり当期純利益はX1年度（140.0）よりもX2年度（128.3）の方が小さい。

* X1年度の1株当たり当期純利益140.0＝当期純利益1,400（問4参照） / 発行済株式数10

* X2年度の1株当たり当期純利益128.3＝当期純利益1,540（問8参照） / 発行済株式数12

【問16】①：（ア）正（イ）正

ア) 問題文の通り。

イ) 時価総額はX1年度（20,000）よりもX2年度（30,000）の方が大きい。

* X1年度の時価総額20,000＝1株株価2,000×発行済株式数10

* X2年度の時価総額30,000＝1株株価2,500×発行済株式数12